

京都教育大学 同窓会

令和六年度 定期総会 挨拶

七月七日

会長 高向 健次

私たちの京都教育大学。そのユニバーシティ・フラワーともいえる「紫露草」が美しく花を咲かせる頃となりました。

本日はお忙しい中、京都教育大学同窓会「令和六年度 定期総会」にご参集いただき誠にありがとうございます。

西脇隆俊（たかとし）京都府知事様、松井孝治（こうじ）

京都市長様、並びに、村山和久 京都府教育庁教育監様、春田寛（ひろし） 京都市教育次長様に ご臨席賜り、

母校、京都教育大学からは太田耕人 学長様をはじめ浅井和行 理事・副学長様、同じく相澤伸幸 理事・副学長様、細川友秀 前学長様に ご臨席賜りました。

顧問の皆様方もお元気なお姿でご臨席いただいております。

ご来賓の皆様方に心より感謝申し上げます。

そして、本日までご参加いただいている皆様方との一年ぶりの再会を嬉しく存じます。

さて、少しお時間をいただきまして、ただ今、私たちが直面して

いる課題について皆様方と共有しておきたいと存じます。

「同窓会の会員になっていて良かった!」「そうだ。同窓会の会員にならなくては!」と思ってもらえるような同窓会運営に励んでまいりました。また、後輩の現役学生会員の皆さんの支えになるような同窓会であり続けたいとの思いで実践してまいりました。

ご承知のように、令和八年度に母校「京都教育大学」が創立百五十周年を迎えます。

まず、この令和八年度までの二年間をいかに取り組み、創立百五十周年の記念すべき年の「同窓会 定期総会・懇親会」をいかに迎え、いかに次のステップにつなげていくかが第一の課題であると捉えています。

加えて、平成二十八年度に導入した「入学時入会制」による三百五十名にも及ぶ学生会員の皆さんが令和七年度末で十年間の満期を迎えます。そのまま会員であり続けるためには、令和七年度中に継続手続きが必要で、翌、令和八年度には再入会の手続きを済ませた新たな会員が誕生することになります。奇しくも大学の創立百五十周年の年です。どのくらいの方々が手続きを取ってくださるかが重要なポイントになります。

以後、毎年、十年間の満期を迎える三百名を越える方々に再入会を

働きかけていかねばなりません。

合わせて平成二十八年度以前に入学した未加入の卒業生が、私たちの世代まで遡ると数えきれないほどの人数になります。その方々への入会を促す運動も継続していかねばなりません。これまでも皆様方にもご協力をお願いしてきた所謂『ワン・ツー運動』です。残念ながら、入会へのハードルは高いようで、この運動によって目に見える成果を上げることはなかなか困難です。しかし、諦めるわけにはまいりません。さらに本腰を入れた推進が必要です。会員の皆様方、何卒、『ワン・ツー運動』にご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

このように、創立百五十周年にあたる令和八年度が重要な節目の年になり、卒業生の同窓会離れの傾向に終止符を打つことができるかどうかの瀬戸際になります。

令和八年度の「創立百五十周年記念の『定期総会・懇親会』」では、大勢の同窓会員が集い、創立百五十周年をともに祝い、母校である師範学校や京都学芸大学、京都教育大学の輝かしい伝統を確かめ合う機会になることを願っています。

それは同窓会の運営にあたって財務の安定化を図るということで、会員の皆さんの数が増えていくなれば、この問題は自ずと解消に向かうでしょう。しかし、会員増が芳しくない結果になるようであれば、同窓会の運営はますます厳しいものになっていきます。

昨年から続く諸物価高騰の波。この傾向は今後も続きそうです。

この『定期総会・懇親会』の会費も上げさせていただきました。十月には郵便料金等も値上げされ、通信費の増大も危惧されます。

今後も、皆様方にご負担をお願いすることがありましたら、その折には、ご理解の上、ご協力賜われれば幸いに存じます。

以上、直面する課題を皆様と共有しておきたいと思い、お時間をいただきました。

会員の皆様方の温かいご理解とご支援、ご協力をいただきまして、懸命に、この難局を乗り越えるべく、課題解決に努めて参ります。

会員の皆様方の一層のご支援、ご協力を重ねてお願い申し上げます。

結びに、ご参会の皆様様の益々のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げます。

げまして、開会のご挨拶と致します。

本日は、誠にありがとうございます。